

病院再開発 担当の副院長に聞きました!



何が変わったの?

病棟が新しくなったことで、キレイになったのはもちろんのこと、高度先端医療の推進、県内の救急医療の充実、周産期医療体制の強化、医療人の教育養成、患者アメニティーの向上など、以前より多くの社会的要望に応えることができました。平成26年には、外来・診療棟も新しくなる予定です。

先生が苦労したところは?

旧病棟から新病棟へ、患者さんに負担をかけず、いかにスムーズに移転できるかが課題で、移動させるルートや時間を詳細に決定しました。無事、問題なく患者さんが移転できてよかったです。他にも、新病院での運営が円滑にいくように各部署との話し合いも大切な業務でした。また、2期外来棟の設計事務所の決定、各部署との面積協議、これらを決定するには様々なところと交渉し、非常に多くの時間を費やしました。

三重大学大学院医学系研究科 PROFILE 新保 秀人 教授 Shimpo, Hideto プロフィール

愛知県生まれ。昭和54年三重大学医学部卒業。同大学大学院医学系研究科博士修了後、同大学医学部助手、講師、ハーバード大学留学、助教授を経て現在に至る。専門は胸部心臓血管外科、特に先天性心疾患の外科治療。

いつ建て直そうと思ったの?

計画を検討し始めたのは、11年前の2001年です。そして、2007年の12月から新病棟の工事に着工しました。

病院再開発の担当者に選ばれてどのような思いだった?

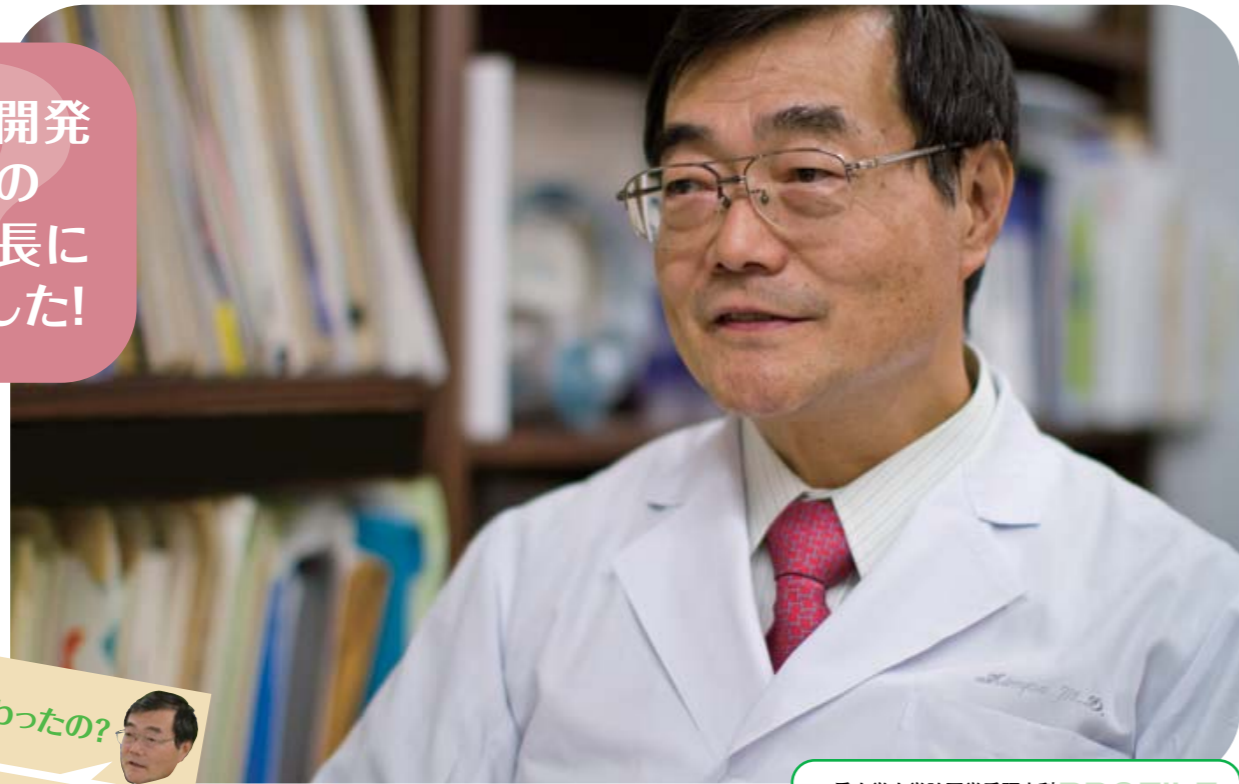
病院の新築(移転)というものは一生のうちになかなかあるものではありません。その担当というのはとても光栄でしたし、名誉にも感じました。しかし、それと同時に問題なく遂行しなければならないという重い責任を感じました。

いくら掛かったの?

新病棟部分はざっくり約160億円!!



計画当初に作られた模型

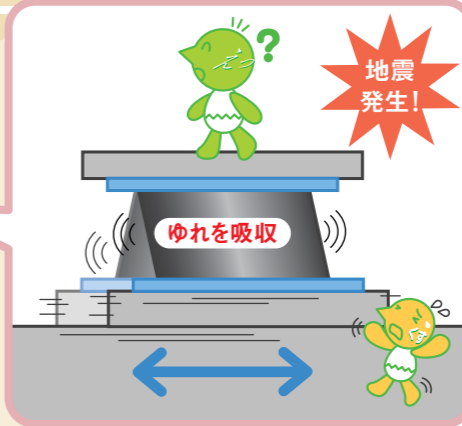


新病棟の安心ポイントはどこ?

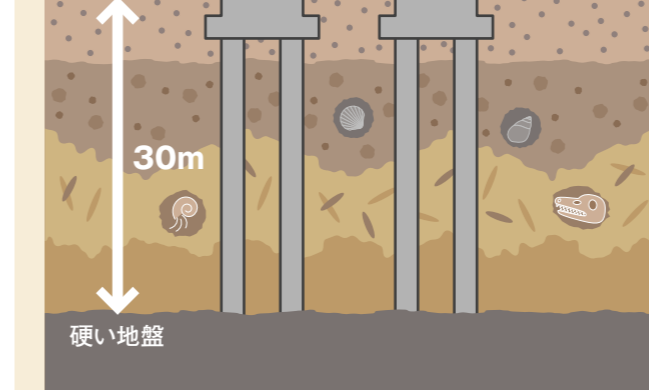
この病棟が大規模地震にも耐えられる免震構造であるということです。87本の杭を地下30mの深さまで打ち込み安定した地盤で新病棟を支えているので、液状化による建物の影響はありません。また、非常用電源も新しいエネルギーセンターに整備されており、燃料タンクが満タンの状態であれば72時間、非常用コンセントに電気を供給できます。以上のことから、多くの方が心配されている東海・東南海・南海連動型地震にも耐えてくれるでしょう。



地下の87本の杭と新病棟の間には鉛入りの天然積層ゴムの免震装置があり、地震の揺れを吸収し建物への影響を低減させる仕組みになっている。



こんなに長い杭が87本もあれば安心だね



ヘリポートができたけど、ヘリコプターはあるの?

平成24年2月1日から伊勢赤十字病院と共用でドクターヘリの運用を開始します。どちらかの病院にドクターヘリが待機している状態で、緊急時にすぐ現場に飛んで駆けつけることができます。



食事は今まで通り?

食についても改善しました。今までは各部屋を回って配膳をしていたので、患者さんのところにご飯が来たときは冷めてしまっている場合があります。しかし今回、新病棟の各フロアに食堂デイルームをつくり、ご飯もその隣のパントリーで配膳するので、あたたかいご飯を食べることができます。



スタッフの反応は?

多くのスタッフは真新しい病院で働くことに心を弾ませていることと思います。皆さんの顔がいつになく輝いているように見えるんです。新病棟というフレッシュな空間を得て、安全な医療のためにスタッフ全員の絆がより一層強くなった気がします。スタッフのアメニティーも改善され、働きやすくなったのではないのでしょうか。

なんで病棟は三角形構造なの?

病棟の三角形の真ん中の部分は病院スタッフのスペースとなっていて、病院スタッフが患者さんを見守りやすい構造なんです。

新保先生、どうもありがとうございました。

